

「和木町地域協育ネット」の取組について

【和木町 和木中学校区】

地域の概要

和木中学校区は、山口県の東端、小瀬川を挟んで広島県との県境に位置します。海岸沿いにコンビナートがあり、化学工業が盛んな地域です。

校区には、保育所・幼稚園・小学校・中学校が一つずつあり、幼保・小中の連携が取りやすく、地域住民も学校や町の行事に対して大変協力的です。

人口	6,470人	
世帯数	2,779世帯	
対象校及び 児童生徒数	和木中学校	196人
	和木小学校	398人

組織の内容

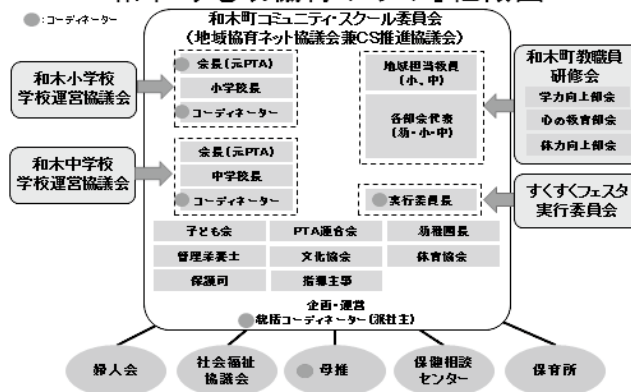
今年度より、地域協育ネット協議会とコミュニティ・スクール推進協議会とを一体化した「和木町コミュニティ・スクール委員会」を推進母体としました。「和木町地域協育ネット」の組織は右図のとおりです。学校運営協議会の会長をはじめ、教職員や町内の各種団体の代表が委員となり、幼・小・中が一貫して取り組む活動について意見を出し合います。委員会の企画・運営は統括コーディネーターである派遣社会教育主事が務めています。

幼・小・中の教職員で構成される「和木町教職員研修会」において、幼・小・中が一貫した教育の推進を図るため、「学力向上部会」「心の教育部会」「体力向上部会」の3部会を設け、各部会のおおまかな取組について、「和木町コミュニティ・スクール委員会」で協議することで、地域住民の意見も取り入れた取組になるとともに、関係団体の協力も得やすくなっています。

放課後子ども教室の活動は軌道に乗っており、コーディネーターを中心に指導者及び教育活動サポーター等、地域の方々の支援を受けて運営されています。

家庭教育支援については、本町における子育て支援の中核組織である母子保健推進協議会の役員にコーディネーターを依頼したことで、子育て支援関係団体とのネットワークづくりも計画的に進められています。町内の子育て支援活動を紹介したパンフレットを、母子保健推進協議会の役員のコordinエーターと保健相談センターの保健師が協働して作成し、保健相談センターの利用者等に配布するなど、町長部局との連携も推進しています。

「和木町地域協育ネット」組織図



特色・重点的な取組

これまで行ってきた学校支援活動や地域貢献活動については、学校・地域双方にメリットが感じられるよう支援内容等について検討しました。また、「地域協育ネット」の周知と、地域住民が学校に行きやすい雰囲気の醸成を目的として、学校だよりを町内各所に置いてもらったり、学校の多目的スペース等を生涯学習の場として開放したりしました。

主な活動の紹介

○ 取組の周知について

「地域協育ネット」に係る学校の取組を広く周知し、地域住民の関心を高めることをねらいとして、カラー印刷した学校だよりを、金融機関や病院・スーパーなど、地域の方が集まる場所に置いてもらいました。これにより多くの方に学校だよりを読んでもらうことができ、取組の周知に役立っています。

○ 家庭教育（子育て）支援について

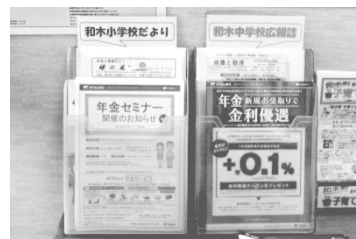
今年度は、子どもの遊び場や親子が集う場を整備しました。放課後子ども教室の教育活動サポーターが材料の調達と製作を一手に引き受け、保健相談センターに段ボール迷路を設置しました。乳幼児とその保護者を対象としたイベント「すくすくフェスタ in わき」で披露され、現在も親子の憩いの場として活用されています。

○ 学校支援活動について

小学校の『『こころの先生』派遣事業』を活用した授業の中で、講師の話聞いた後、児童が講話の感想や自分の将来の夢について語り合うグループ協議を行いました。学校運営協議会委員やこれまでに学校支援をしてくださった方々にグループ協議に参加してもらい、進行役を務めてもらいました。

○ 地域貢献活動について

今年度より、「生涯学習の場の提供」として、公民館で活動している自主活動サークルが、月に1、2回程度、和木小・中学校の多目的スペース等を利用して活動しています。ちぎり絵サークルには、発表の場として小学校の玄関に作品を展示してもらっています。また、中学校で活動している生け花サークルでは、見学に来た生徒も生け花の体験ができます。児童生徒にとっては、多様な体験ができる場となり、またサークルにとっては、児童生徒とふれあうことにより元気をもらえる場となっています。



郵便局に置かれた学校だより



手作りの段ボール迷路



児童とのグループ協議



生け花サークルと生徒

成果と課題

学校支援ボランティアの依頼を通じ様々な方と話をする中で、「子どもたちへの指導は難しい。」、「自分の子どもが通っていないので、学校に行くのは敷居が高い。」という声をよく耳にしました。そこで、今年度から誰もが行きやすい学校をめざして、学校を生涯学習の場として提供する取組を始めました。今後も趣旨を理解してもらいながら活動団体を増やし、学校という場を介して児童生徒と地域住民とが交流することで、様々なつながりが広がると期待しています。

今年度、地域担当教員の役割が明確でなく、コーディネーターとの調整がうまくいかないことがありました。「地域協育ネット」の取組や意義に関する教職員への周知を徹底するとともに、地域担当教員に対する研修も検討していく必要があると考えています。

今後の取組

学校を生涯学習の場として開放する取組が、学校・サークルともに効果的であったので、今後も取組を継続し、学校を拠点として活動するサークルを増やしていきたいと考えています。

また、誰もが行きやすい学校づくりを進めるため、「コミュニティルーム」の設置についても検討していきたいと考えています。